あまにゅう

青森県青年海外協力協会(AOCA)
広報誌
平成 24 年 6 月号 (2012.06)
発行:青森県青年海外協力協会
編集担当:佐々木理江(20-3 セネガル)
對馬千佳子(16-2 ボリビア)

AOCA 会長からのご挨拶

会長　村木裕俊(H19-2 シリア　果樹栽培)

去る 2012 年 5 月 19 日、平成 24 年度 AOCA 総会を終え、今年度の活動計画が決まりました。今年度は例年のイベントへの参加、写真展の開催、新隊員の壮行会、帰国隊員の報告会、歓迎会に加え、新しい事業として北東北 3 県連携事業、震災復興支援にも関連する『循環型フリーマーケット』などを実施することになりました。今回は約 5 時間となかなか長丁場の総会になりましたが、実りある会であったように思います。参加頂いた皆様、お疲れ様でした!

さて、私も会長をやらせていただき 1 年が過ぎました。まだまだ未熟なものでご迷惑もたくさんおかけしましたが、皆さまに支えられ何とか務めることができました。残りの 1 年間も引き続きよろしくお願いいたします。昨年度は活動を通じたくさんの OV の方とお会いすることができましたが、今年はもっとたくさんの OV の方々と会い、活動を盛り上げていきたいな、と思っています。2 年間途上国で生活し、国づくりに協力するというなかなかできない経験、少しでもいろんな形で青森県の皆さまに還元できるよう頑張っていきたいと思います。青森県は小さいようでなかなか広く、津軽と南部、下北の方々が活動を共にする機会は多くありませんが、ご都合のつくときは気軽にご参加ください。メーリングリストでも情報交換、共有できますので、OV の方のみならず、派遣中の隊員の皆さまも気軽にメールを頂ければと思います。

それでは今年度も一年間、楽しくいきましょう!!

ウィンターキャンプ協力に感謝

大賀重樹(H5-1 ホンジュラス 小学校教諭)

福島の子どもたちを招待して 1 月初旬に開催したウィンターキャンプは大好評で、多くの方々から好評価をいただきました。また、青年海外協力隊での経験も十分生かせたと感じています。今後も我々にできる支援を考えて実行したいと考えております。実行委員長として協力頂いた皆さまに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

3 月末には、JICA 二本松訓練所で実施報告をしてきました。

年次総会を開催しました

對馬千佳子(H16-2 ボリビア　村落開発普及員)

2012 年 5 月 19 日(土)に青森市水産ビルにて AOCA の通常総会が行われました。OV の参加の他、JICA 東北支部長の小野修司さんにも来ていただきました。小野さんからは JICA の近況報告と事業計画、JOCA が公益社団法人となったことについての説明をしていただきました。

総会では平成 23 年度の事業報告と収支決算報告が承認され、今年度の事業と予算について話し合いました。今年度からは新たに、北東北 3 県の連携事業について検討していきます。また、1月に行われた福島 kids ウィンターキャンプに次ぐ被災地支援活動＋国際協力として、沖縄で行われている「ゆいまーる」マーケットをヒントに被災地や協力隊の任国のものを購入してイベント等で販売するという案、協力隊ナビ in 青森の月1開催、新隊員への餞別として、AOCA 法被を贈って任地で活用してもらうという変更点なども議論しました。この 1 年さらに盛りだくさん事業で AOCA の元気を発信して行きたいと思います。

15 年ぶりにラオスを再訪

渡辺淳一（S43-3　ラオス　家畜飼育）

去る 2012 年 4 月 11 日午前 10 時 45 分、私を乗せたラオス航空 QV424 便は無事にラオスの首都ビエンチャンのワッタイ国際空港に着陸した。平成 8 年（1996 年）11 月に「協力隊を育てる会」の「現地視察の旅」で訪問して以来 15 年ぶりのことであった。

今回の旅の目的は、JICA の「南部山岳丘陵地域生活向上プロジェクト」のリーダーを務めている大学時代の同期生を訪ねること、そして丁度ピーマイ・ラオ（ラオス正月）で休暇が取れる彼と、隣国カンボジアのアンコール遺跡群を訪れることであった。

凱旋門を模して造られた
パトウーサイ

さて、我が青春の 730 日を過ごした第二の故郷ラオスは、大河メコンは昔と少しも変わらず悠然と流れていたものの、今様「浦島太郎」の感があるほどの大きな変化に驚かされた。それは政府関係の建物やホテルなどの建築ラッシュであり、若者（特に女性）の髪型や服装の変化であった。また敬虔な仏教国であるにも拘わらず、寺院を訪れる観光客のもろ肌脱ぎや半ケツ出しの短パン姿も見られた。そして食べることの大好きな私は、屋台で昔ながらの味（勿論カエルも）を堪能したが、回転寿司のようにベルトコンベアで運ばれて来る具材の好きな物を好きなだけとって食べる「タイスキ」（すき焼きと言うよりタイ式しゃぶしゃぶ）にはびっくり。

世界遺産ワットプーにて

パクセーではヒンドウー教遺跡であるワット・プーや、メコン川本流が滝になっているコーンの滝群を訪れた。そしてメコン川に浮かぶ水上レストランで、沈む夕日を眺めながらの食事をとの計画だったが、何と大変な雷雨と強風に遭遇し、注文したご馳走がテーブルごと飛ばされて途中で退散の憂き目に遭い、隊員時代に勤務先のバン・アモン難民訓練センターの施設が崩壊してしまった嵐が思い出された。

そして、この旅行のもう一つの大きな目的であった島崎一幸・ラダワン夫妻に会えたことは大きな喜びであった。かつて 17 歳で協力隊員の花嫁になって日本に来たラダワンも、今は「おばちゃん」になっていたが、「会いたかった!」とハグ仕合い、彼女手作りのラオス食を食べながらの思い出話しに、時の経つのも忘れてしまった。因みに島崎さんは東京出身であるが、ラダワンをいきなり大都会に連れて行くことを危惧し、下田町のカワヨ牧場（オーナーは応援団の川口彰五郎氏）で働き、AOCA のメンバーでもあった。そしてラダワンは、町の小学校に通った経緯がある。なお、島崎さんは灌漑のコンサルタントとしてアジア開発銀行のプロジェクトや日本工営の仕事をしているが、ビエンチャンを終の棲家とし、死後は隣の寺院に埋骨する契約をしたとのことであった。ラダワンには「今度来日するときには、是非青森まで来てね。カワヨ牧場や木内内小学校にも案内するよ」と伝えた。近いうちにきっと来てくれることと思う。

島崎一幸・ラダワン夫妻

70 歳となりプロジェクトへの SV（シニアボランティア）としての参画はできなくなった私であるが、この度はプロジェクトリーダーである友人に「在来牛の改良」「雌子牛貸し付け制度」などでアドバイスが出来たことから、今度はその進捗状況を確かめるためにも、第二の故郷を再度訪れたいものである。

青森公立大学国際交流講演会
「世界へ羽ばたけ!」を終えて

講演会、
パネルディスカッション
での様子

髙橋和徳(H21-2 ウガンダ 村落開発普及員)

2012 年 3 月 20 日にアウガ AV 多機能ホールにて、青森公立大学主催で行われた講演会の講師として村木会長と私の二人で参加させていただきました。講演会の内容は、前半は私たち 2 人の途上国での経験・感じたことの講演を行い、後半は青森公立大の教授の方々とのパネルディスカッションを行いました。

今回このような機会を頂いた私たちは運営スタッフと相談をし、青森県出身の OB の活動写真や私たちが活動で使っていた物を展示させていただけることになりました。今回の展示物に関しては色々と考え、来場される方がどのような人か?どのようなことに興味があるのだろうか?どのように展示したら見やすいだろうか?など、細かな部分に気を配りながら進めていきました。展示物は、ウガンダ人が作成した携帯ストラップ、活動ビデオ、コーラン、現地の新聞、食用品や生活用品など、隊員ならではのリアリティあるものを中心にしました。展示を手伝ってくれた学生の皆さんには大変好評で、説明を求められた私も非常に嬉しかったです。今回の講演会を通じて、少しでも多くの人に私たちが感じた途上国の現状などを伝えていくことの大切さを痛感しました。当日いらした OB・OG の皆さま本当にありがとうございました。これからも様々な場所で多くの人に関心を持ってもらえるような活動ができればと思います。

村木裕俊(H19-2 シリア 果樹栽培)

青森公立大学から頂いた講演のテーマは『世界へ羽ばたけ!』。打ち合わせでは、「近頃の学生は内向きであるから海外へ目を向けるきっかけになるような話をして欲しい」、とのことでした。これまでやらせてもらった講座では自分の活動や任国事情など、自分の体験や見聞きしたことを伝えるだけでしたが、今回のテーマは今までのものとはちょっと違い、なかなか内容に手こずりました。私が国際協力に興味を持ったきっかけ、実際具体的に進もうと決断したときのことなど、特に大学時代のことを中心にお話しさせていただきましたが学生の皆さんに届いたかどうか。それが海外ではなくても自分の外に目を向けるきっかけになったのであれば、少しは役に立てたかな、と思います。

帰国後、日本での日々

内山智絵(H21-3 セネガル 村落開発普及員)

セネガルから帰国して、早くも 2 か月。日本での生活を満喫…と思いきや、帰国早々に発覚した腰椎のヘルニアが突然悪化し、ここ 2、3 週間は安静と称して自宅でゴロゴロするばかりの毎日です。帰国数ヶ月前から、そういえば脚がなんとなく痛かったのです。毎日砂道を何 km も歩いて村に通ったのが腰に悪かったのか、どうなのか…。2 年の間にはいつしか虫歯もできており、帰国後の身体のメンテナンスは大事だと痛感した次第です。通院以外どこにも行けない生活は不便ですが、私と入れ違いに任地に入った後任隊員さんが 3 日とおかずに Facebook に写真をアップしてくれるのがとても楽しみです。彼とは Skype で打ち合わせもしたり、やれセネガルの家に忘れてきた荷物を捜索してほしい、やれ任地に残してきた愛犬の様子が心配だから写真を送ってくれろ、と次々に要請したり、迷惑もかけていますが、懐かしい任地とまだ繋がっていられるのは嬉しいことです。それからヘルニアが悪化する前ですが、春募集説明会でセネガルの話をさせていただきました。協力隊員としての体験談よりも、セネガル人がどんなに愛すべきで面白い人たちかを熱弁してしまったような気がしますが…。実は 2012 年 6 月 11 日も野辺地高校で出前講座の予定です。

(2012.06.10 作成)

JICA ボランティア春募集説明会＆体験談

2012 年 4 月 21 日(土)に青森市の水産ビルで、JICA による平成 24 年度 JICA ボランティア春募集説明会＆体験談が開催されました。OB•OG6 人が協力し、体験談を話したり参集者からの質問に答えたりしました。

【午前中】•シニアボランティア説明会

•体験報告:佐々木昭子さん(H17 カンボジア 小学校教諭)

【午後】

•青年海外協力隊募集説明会

•体験報告:内山智絵さん

(H21-1 セネガル

村落開発普及員)

☆24－1 次隊出発間近☆

宇野 遥さん

(黒石市出身 カメルーン 幼児教育)

三浦 香菜子さん

(八戸市出身 トンガ 日本語教師)

この度、上記 2 名が新青年海外協力隊員として派遣されることになりました。安全と健康には気をつけて、いってらっしゃい!!

国際協力に関するコンテストで、皆さんの国際協力に関する考えや、経験を伝えてみませんか?

JICA 国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト 2012

募集期間:

2012.6/14(木)～9/14(金)

グローバル教育コンクール 2012

募集期間:2012.6/4(月)～10/22(月)

詳細は JICA 地球ひろばの Web サイトでご確認ください。

たくさんのご応募お待ちしております!!

※青森県青年海外協力協会(AOCA) は青森県出身の JICA 青年海外協力隊•シニアボランティア OB•OG を中心に組織される団体です。

～青森に住んで、世界のことを考えながら決して途上国への情熱を忘れない～

青年海外協力協会広報誌「あまにゅう」は、主に青森県出身の青年海外協力隊の参加経験者からなる団体(AOCA)の広報誌です。この広報誌の発行を通し、県内在住の OB•OG の情報交換をするほか、私たちの活動に興味のある方々に私たちの活動についての理解を求めるとともに、国際協力•国際理解の輪を広げることを目的として発行しています。**「あまにゅう」**とは高山にあり、白い花をさかせる植物。名付け親は川村宏義氏。「あまにゅう」の初代編集者です。

今年度のAOCA主な活動

2012 年【6 月】 JICA ボランティア県庁表敬及び壮行会の開催

【7 月】 JICA ボランティア二次試験対策勉強会の実施、帰国隊員報告会、八甲田丸港フェスタ参加

【8 月】 五所川原立ねぶた運行に参加、しんまちふれあい広場に参加

【9 月】 JICA ボランティア県庁表敬及び壮行会

【10 月】 生涯学習フェアに参加、帰国隊員報告会、JICA ボランティア秋募集説明会

【11 月】 国際協力写真展及び留守家族連絡会開催 in 弘前市文化センター(予定)

【12 月】 JICA ボランティア二次試験対策勉強会の実施、JICA ボランティア県庁表敬及び壮行会

2013 年【1 月】 JICA ボランティアへのふるさと宅配発送

【3 月】 JICA ボランティア県庁表敬及び壮行会

このほかにも、2012 年 6 月から月に 1 回「協力隊ナビ」(協力隊 OV と語る会)や出前講座なども開催します。

詳しくは青年海外協力協会(AOCA)のにサイトをご覧ください。 URL: philo-sophia.me/aoca/